

科目名	人間健康科学研究演習 I			担 当 教 員 : 出口 宝
科目名(英語)	Research Seminar in Human Health Sciences I			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	6 1 4	研究室に掲示
1. 講義内容 本演習は栄養・休養・運動を基本とした健康づくりに関わる健康科学分野の研究活動を行う演習である。この演習は演習Ⅱで執筆する修士論文に備えて、各自が興味ある分野で問題を整理して課題すなわち研究テーマを設定し、その関連研究領域の文献調査を行い、研究計画を立てて自らの研究の実施に着手する。特に、この分野の研究の成果には医科学的なエビデンスが求められるため、修士論文執筆の為のしっかりとした研究デザインを作ることが求められる。 2. 履修要件 健康医学・保養特論を履修することが望ましい。 3. テキスト 特に定めないが、適宜紹介する 4. 参考書 適宜紹介する 5. 講義予定 前 期 第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 第2回目以降から第14回目までは、順次提示する課題を検討して自ら取り組む研究テーマを決めていく。またその間には関連文献を収集してレビューを行う。必要に応じてフィールドワークも行い結果をまとめる。 第14回 発表(プロセス、テーマ、デザイン) 第15回 総 括 後 期 第 1 回 夏期休暇中の成果報告とオリエンテーション 第 2 回 第2回目以降から第14回目までは、テーマに関連して研究を進める上で必要な課題を明らかにしていき、取り組んでいく。必要に応じて随時討論を行う。 第16回 総 括 6. 評価方法 課題の達成内容 6 0 点 活動状況(演習への取り組み) 4 0 点 合 計 1 0 0 点 7. その他 本演習では修士論文の作成のみを目的としたものではなく、大学院生として広く習得すべき事柄を身に付けていくことを目指している。				

科目名	人間健康科学研究演習 I			担 当 教 員 : 小川寿美子
科目名(英語)	Research Seminar in Human Health Sciences I			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	6 0 8	研究室前に掲示

1. 講義内容

“健康とは何か”を広く考える学問である公衆衛生学を広く捉える力を養うことを目標とする。具体的には、論理的な文章力と文献の読解力を養うための基礎固めをするため、公衆衛生学に関する数多くの論文、資料を精読し、多方面からの知識を涵養する。

2. 履修要件

将来、公衆衛生学および国際保健分野を専門に学ぶ意思がある学生。

3. テキスト

Colin Robson. Real World Research: A Resource for Social Scientists and Practitioner – Researchers.
Blackwell Pub. 2002. ￥4,624

4. 参考書

その都度、提示する。

5. 講義予定

- 第 1 回 「健康」に関する概論
- 第 2 回 研究仮テーマの設定
- 第 3 回 先行文献の検索
- 第 4 回 先行研究をクリティカルに読む
- 第 5 回 同上
- 第 6 回 同上
- 第 7 回 同上
- 第 8 回 先行研究をベースとしたメタ分析
- 第 9 回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 仮研究テーマに関するメタ分析を基にした論文の執筆
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 同上
- 第16回 発表会

6. 評価方法

演習での活動状況	50点
課題レポート	50点
合 計	100点

7. その他

読みこなす論文や資料が毎回多いが、論理的な思考力とクリティカルな思考力を養う為の基礎固めとなるので、受講生は是非とも最後まで頑張って演習に望んでほしい。

科目名	人間健康科学研究演習 I			担当教員：向山貴仁	
科目名（英語）	Research Seminar in Human Health Science I				
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー	
4	1	通年	210	研究室に掲示	
1. 講義内容 本演習は、体育・スポーツを対象としたスポーツ科学分野の研究活動に関する演習である。演習Ⅱで取り組む修士論文に向けて、各自の興味関心や課題とする事項についての検討を行い、テーマ設定・先行研究の検討・論文構成、研究計画の具体化を図る。					
2. 講義要件 将来、スポーツ科学の研究分野、スポーツ指導者に進む意思がある者。					
3. テキスト Thomas. J. R, Nelson. J. K, 田中喜代次・西嶋尚彦監訳（2004）身体活動科学における研究方法．ナッブ． 波多野義郎（1974）保健体育実例リポート・論文の書き方．泰流社．					
4. 参考書 その都度、提示する。					
5. 講義予定					
第 1 回（ / ）		オリエンテーション	第 1 回（ / ）		オリエンテーション
第 2 回（ / ）		身体活動研究の序章	第 2 回（ / ）		テーマに関する状況
第 3 回（ / ）		〃	第 3 回（ / ）		（1）世界の状況
第 4 回（ / ）		課題の展開と文献の利用	第 4 回（ / ）		〃
第 5 回（ / ）		〃	第 5 回（ / ）		（2）日本の状況
第 6 回（ / ）		研究課題の提起	第 6 回（ / ）		〃
第 7 回（ / ）		〃	第 7 回（ / ）		〃
第 8 回（ / ）		〃	第 8 回（ / ）		論文概要の検討
第 9 回（ / ）		研究方法	第 9 回（ / ）		〃
第 10 回（ / ）		〃	第 10 回（ / ）		〃
第 11 回（ / ）		〃	第 11 回（ / ）		〃
第 12 回（ / ）		研究学問の倫理的問題	第 12 回（ / ）		〃
第 13 回（ / ）		〃	第 13 回（ / ）		〃
第 14 回（ / ）		〃	第 14 回（ / ）		論文概要の発表会準備
第 15 回（ / ）		前学期の総括	第 15 回（ / ）		論文概要の発表会準備
6. 評価方法：					
・活動状況（授業への取り組み）		50点			
・レポートの内容		50点			
・合計		100点			
7. その他：特になし					

科目名	人間健康科学研究演習Ⅱ			担 当 教 員 : 出口 宝
科目名(英語)	Research Seminar in Human Health Sciences Ⅱ			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
4	2	通年	6 1 4	研究室に掲示
1. 講義内容 この演習は、演習Ⅰで設定したテーマに対して研究活動をさらに探求する演習である。フィールドワークや臨床研究などの研究に自からが取り組み、結果の整理解析と考察を行い論文執筆を行う。 2. 履修要件 健康科学研究演習Ⅰを履修済みであること。 3. テキスト 特に定めないが、適宜紹介する 4. 参考書 適宜紹介する 5. 講義予定 前 期 第 1 週 オリエンテーション 第 2 週 データ収集：第 2 週目以降から各自のテーマに取り組み研究を実施する。その間、経過報告を随時行い、必要あれば研究の修正を行って第 14 週目までにはデータの収集(集積)を終了する 第 15 週 総 括 後 期 第 1 週 発表(研究目的、方法、結果)とオリエンテーション 第 2 週 論文執筆：第 2 週目以降から第 12 週目までは、研究結果に対する考察をすすめ修士論文を完成させる。 第 13 週 プレゼンテーション 第 14 週 プレゼンテーション 第 16 週 総 括 6. 評価方法 修士論文の内容 8 0 点 口頭発表の内容 2 0 点 活動状況(演習への取り組み) 2 0 点 合 計 1 0 0 点 7. その他 研究結果は研究会等への発表ならびに紀要などの発行物に投稿することが望ましい。				

科目名	人間健康科学研究演習 II			担 当 教 員 : 小川寿美子
科目名(英語)	Research Seminar in Human Health Sciences II			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
4	2	通年	6 0 8	研究室前に掲示

1. 講義内容

公衆衛生学を修士論文のテーマとする院生のための演習である。内容は、各自の修士論文テーマに沿った研究計画、準備、調査方法の決定、データ収集、分析、文章の執筆など、研究に基づく一連の作業を丁寧に指導する。

2. 履修要件

原則として演習 I で小川ゼミを取得している学生に限る。

3. テキスト

Colin Robson. Real World Research: A Resource for Social Scientists and Practitioner – Researchers.
Blackwell Pub. 2002. ￥4,624

4. 参考書

その都度、提示する

5. 講義予定

- 第 1 回 研究テーマ着手準備・研究計画作成
- 第 2 回 同上
- 第 3 回 対象の検討
- 第 4 回 同上
- 第 5 回 分析方法の検討
- 第 6 回 同上
- 第 7 回 実験・測定
- 第 8 回 同上
- 第 9 回 仮結果・考察のまとめ
- 第 10 回 同上
- 第 11 回 修士論文中間発表
- 第 12 回 論文執筆指導
- 第 13 回 同上
- 第 14 回 同上
- 第 15 回 同上
- 第 16 回 修士論文発表会

6. 評価方法

授業での活動状況	40点
課題レポート	30点
卒業論文	30点
合 計	100点

7. その他

科目名	人間健康科学研究演習Ⅱ			担当教員：向山貴仁
科目名（英語）	Research Seminar in Human Health ScienceⅡ			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	210	研究室に掲示
1. 講義内容 本演習は、体育・スポーツを対象としたスポーツ科学分野の修士論文をテーマとする院生のための演習である。 演習Ⅰで設定した各自のテーマを修士論文の完成に向けて研究計画、論文構成、資料収集、論文執筆等の作業の具体化を図る指導をおこなう。				
2. 講義要件 将来、スポーツ科学の研究分野、スポーツ指導者に進む意思がある者。 演習Ⅰで向山ゼミを取得している院生とする。				
3. テキスト Thomas. J. R, Nelson. J. K, 田中喜代次・西嶋尚彦監訳（2004）身体活動科学における研究方法. ナッパ. 波多野義郎（1974）保健体育事例リポート・論文の書き方. 泰流社.				
4. 参考書 その都度、提示する。				
5. 講義予定				
第1回（ / ）オリエンテーション		第1回（ / ）オリエンテーション		
第2回（ / ）研究データの収集と報告		第2回（ / ）論文の執筆と修正		
第3回（ / ）"		第3回（ / ）"		
第4回（ / ）"		第4回（ / ）"		
第5回（ / ）"		第5回（ / ）"		
第6回（ / ）"		第6回（ / ）"		
第7回（ / ）"		第7回（ / ）"		
第8回（ / ）"		第8回（ / ）"		
第9回（ / ）"		第9回（ / ）"		
第10回（ / ）中間発表に向けての準備		第10回（ / ）"		
第11回（ / ）"		第11回（ / ）"		
第12回（ / ）"		第12回（ / ）"		
第13回（ / ）"		第13回（ / ）"		
第14回（ / ）"		第14回（ / ）最終発表会準備		
第15回（ / ）前学期の総括		第15回（ / ）最終発表会準備		
6. 評価方法： ・活動状況（授業への取り組み） 50点 ・レポートの内容 50点 ・合計 100点				
7. その他：特になし				

目名	健康医学・保養特論			担 当 教 員：出口 宝
科目名(英語)	Medicine and Health Promotion			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	614	研究室に掲示

1. 講義内容

健康学の専門家として幅広い分野で活躍するためには、医学的エビデンスに基づいた健康づくりを理解し活用する手法を身につけることは重要である。これらが出来た上に、広義の意味での多様な健康の概念にもとづく考え方やその実践があることが重要である。本講義では、主に身体を健康を構成する運動・栄養・休養を医学的科学的な立場から理解し、この知識の理解のもとに身体を健康をミクロからマクロ、ホリスティックに考えて行く。特に、最新のアンチエイジング医学から得られる健康学を導入する。

これらを理解し会得することで、新しい知識と考え方のもとに、異なる様々な地域や環境における健康づくりを考えることの出来る基礎力を身に付けることが出来るようになる。また、本講義では、これらを統合的に効率よく具現化する手法の一つとして、保養についての専門的知識も会得する。

2. 履修要件

特になし

3. テキスト

適宜紹介する

4. 参考書

適宜紹介する

5. 講義予定

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	健康医学 1
第 3 回	健康医学 2
第 4 回	健康医学 3
第 5 回	健康医学 4
第 6 回	健康医学 5
第 7 回	健康医学 6
第 8 回	健康医学 7
第 9 回	健康医学 8
第 10 回	健康医学 9
第 11 回	保 養 論 1
第 12 回	保 養 論 2
第 13 回	保 養 論 3
第 14 回	保 養 論 4
第 15 回	総括
第 16 回	口頭試問

6. 評価方法

課題の達成内容	40点
活動状況(演習への取り組み)	30点
口頭試問	30点
合 計	100点

7. その他

【履修の心得】

出された課題は確実にしてくること。(それを活用して進める講義もいくつかある)

【教育目標】

最新の医学的考えにもとづく健康が理解でき、その実践方法をデザインすることが出来る。

【その他】

本講義では知識と情報の提供のみではなく、自らが考え調べて問題を解決しながらすすめる講義形式もとる。

科目名	公衆衛生学特論			担 当 教 員 : 小川寿美子
科目名(英語)	Advanced Public Health			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	608	研究室前に掲示

1. 講義内容

戦前および戦後における沖縄の公衆衛生学は、米国民政府の指導のもと、本土にはみられない制度が導入され、独特の歴史を歩んできた。本講義では、その歴史を体系的に検証し、そこから現代の公衆衛生学の在り方に生かせる教訓は何かを考える。特に、戦後の沖縄の状況と近い地域として、現在の途上国の保健医療問題と合わせて考察する。

It is available to provide the lecture in English, if it is strongly requested.

2. 履修要件

特になし。

3. テキスト

Ogawa,S, Boostrom E. Okinawa's Post-War Health Recovery and Development」Seido-sha. 2009. ¥2,500

中村安秀 (編). 「日本の保健医療の経験と途上国への応用」 JICA. 2004.

ダウンロード可: http://www.jica.go.jp/jica-ri/publication/archives/jica/field/200403_02.html

4. 参考書 (DVD)

小川寿美子 (責任編集). 「沖縄の保健医療の経験」 シリーズ (8 編: DVD3 枚) 国際協力機構. 2000. ¥700/枚

5. 講義予定

- 第 1 回 沖縄の公衆衛生の歴史 (概論)
- 第 2 回 沖縄の疾病構造の変遷と行政の取り組み
- 第 3 回 沖縄の公衆衛生看護婦制度 (行政編)
- 第 4 回 沖縄の公衆衛生看護婦制度 (実践編)
- 第 5 回 沖縄の寄生虫ゼロ作戦
- 第 6 回 沖縄県小児保健協会の活動と意義
- 第 7 回 沖縄の医療保険のあゆみ
- 第 8 回 沖縄にみる “野のカウンセラー”
- 第 9 回 沖縄の配置家庭薬システム
- 第10回 途上国の保健医療システムへの応用
- 第11回 途上国の保健人材育成への応用
- 第12回 途上国の保健医療財源確保への応用
- 第13回 途上国の private/public mix への応用
- 第14回 途上国の感染症対策への応用
- 第15回 現在の沖縄の保健医療問題に対する過去の経験の応用
- 第16回 全体のまとめ・議論

6. 評価方法

- ・活動状況 50点
- ・レポート 50点
- ・合 計 100点

7. その他

特になし。

科目名	人間健康科学研究方法特論			担 当 教 員 ： 小川寿美子
科目名(英語)	Advanced Human Health Science Research Methods			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
4	1	後期	6 0 8	研究室前に掲示

1. 講義内容

健康・スポーツ科学領域の多くの研究では、身体パフォーマンスを測定したり、健康を促進もしくは阻害する要因を推定する作業などを行う。この領域における研究すべきテーマや問題は多く、様々な要因が複雑に絡み合っているため、研究アプローチ也多岐にわたる。そのため健康やスポーツに関する現象の諸側面を単純化、数値化、視覚化し、客観的に表現する手法（データ解析）は、健康・スポーツ科学研究にとって欠かすことのできないものである。同特論は、研究の取り掛かり方から、研究計画の遂行方法、データの処理方法と統計解析方法といった研究の基盤となる一連の流れを受講生が系統的に理解し実践できる知識を獲得することを目的とする。

It is available to provide the lecture in English, if it is strongly requested.

2. 履修要件

特になし

3. テキスト

出村慎一「健康・スポーツ科学のための研究方法」杏林書院、2007

柳井久江「4Steps エクセル統計」OMS 出版、2008

4. 参考書

柳井久江「エクセル統計 実用多変量解析編」OMS 出版、2005

5. 講義予定

- 第 1 回 研究にとりかかる（概論）
- 第 2 回 研究計画を立てる際の注意点
- 第 3 回 サンプルサイズ
- 第 4 回 実験的研究の計画
- 第 5 回 調査研究の計画
- 第 6 回 調査、測定、実験データの基礎的な処理
- 第 7 回 質的データと量的データの処理法
- 第 8 回 統計手法での検定
- 第 9 回 実験データの差を比較
- 第 10 回 2 要因の比較
- 第 11 回 順序尺度の比較
- 第 12 回 名義尺度の比較
- 第 13 回 データ間の比較
- 第 14 回 データの妥当性、信頼性、客観性の検証方法
- 第 15 回 多変量解析の概要と使い方
- 第 16 回 まとめ

6. 評価方法

授業での活動状況	50点
課題レポート	50点
合計	100点

7. その他

本特論は、主に科学的根拠に基づく研究手法を学ぶことを通じて、第三者に対して説得力のある論文を書きあげる手法を身につけてもらう内容である。自分のパソコンを使い、簡単な統計処理から多変量解析までができるよう指導する。同演習を通じて得た分析技法を用い、科学的根拠に基づく修士論文を執筆してほしい。

科目名	地域保健学特論			担 当 教 員 : 吉川千恵子 (非常勤)
科目名(英語)	Community health science			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後 期		

1. 講義内容

健康・ウェルネス、ヘルスプロモーションの概念を基礎として、地域社会・生活・文化から生ずる健康問題や、現在、国の健康政策として展開している「健康日本 21」が沖縄県や市町村でどのように実践されているか、各健康レベルとライフサイクルの視点から考究する。また、地方自治体における健康政策づくり、保健計画策定・施策化と予算のしくみ、それに対応する地域保健医療活動のエLEMENTやツールを理解し、人々の健康支援などにおいて総合的企画者・協働的実践者、リーダーとして地域保健医療システムの開発、さらに教育研究者としての専門的知識を会得する。具体的には、沖縄の地域における実践例から保健医療問題と解決策を考察する。

2. 履修要件

授業は、講義と受講生との双方向型で進める。
「国民衛生の動向」の事前学習を勧める

3. テキスト

開講時に指定する

4. 参考書

- 1) 健康の政策科学 編集：新井宏明他 医学書院 1997 年
- 2) 地域づくり型保健活動のすすめ 著者：岩永俊博 医学書院 1995 年
- 3) 地域看護学 編集：後閑容子他 インターメディカル 2004 年

5. 講義予定

第 1 週	地域保健学の概念
第 2 週	地域保健の理論・キーワード
第 3 週	地域社会・生活・文化と健康問題
第 4 週	「健康日本 21」と地域保健活動
第 5 週	「健康おきなわ 21」と地域保健活動、「健康いへや 21」と地域保健活動
第 6 週	地域保健活動のエLEMENT
第 7 週	地域保健活動のツール
第 8 週	地方自治体における健康政策づくり、保健計画策定、施策化と予算のしくみ
第 9 週	同上
第 10 週	地域保健活動の実際 1 (県保健福祉行政・福祉保健所)
第 11 週	地域保健活動の実際 2 (市町村)
第 12 週	地域保健活動 課題レポートとディスカッション
第 13 週	地域保健活動と地域保健システム
第 14 週	地域健康危機管理
第 15 週	地域保健管理・健康評価

6. 評価方法

活動状況	50 点
課題レポート	50 点
合計	100 点

7. その他

特に無し

科目名	健康・スポーツ指導特論			担 当 教 員：高瀬 幸一
科目名(英語)	Instructing Health and Sports			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	研 205	

1. 講義内容

運動指導現場においては、従来の競技スポーツ指導が中心となり、中・高年齢者や運動未経験者の体力特性、心理面に力点を置いた指導がなされているとは言い難い。今日、必要になるのは「健康・スポーツ指導」に関する正しい情報（理論）の提供と信頼できる指導者の養成である。
本特論は、日進月歩する分野における最新の理論を論じながら、日本における健康・スポーツ理論について考察する。

2. 履修要件

教職免許（保健体育科）や健康、スポーツ指導者資格を有している者が望ましい。

3. テキスト

オリエンテーション時に指示する。

4. 参考書

青木 高、他編集『健康・スポーツの指導』、建白社、2006 年、¥2,205
成 和子 編著 『ライフスキルのための改訂健康科学』、2008 年、¥2,100
西平/文部科学省 21 世紀 COE プログラム 『健康・スポーツ科学研究の推進中間成果報告書』2004 年

5. 講義予定

第 1 回

オリエンテーション

第 2 回

健康・スポーツの指導概論

第 3 回

〃

第 4 回

運動指導の目的と効果

第 5 回

〃

第 6 回

種目別の運動指導

第 7 回

〃

第 8 回

競技スポーツのためのトレーニング指導

第 9 回

〃

第 10 回

プログラム指導の発展

第 11 回

〃

第 12 回

健康づくりのための運動・スポーツ指導カウンセリング

第 13 回

〃

第 14 回

期待される指導者像

第 15 回

〃

6. 評価方法

担当部門での発表

40 点

討論への参加

30 点

調査レポート

30 点

合 計

100 点

7. その他

科目名	伝統舞踊特論			担 当 教 員 : 花城洋子
科目名(英語)	Theory of Traditional Dance			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	203 (人)	月曜 10 : 30～12 : 10・木曜 13 : 10～14 : 40

1. 講義内容

比較動作学の視点から、世界に伝わる民族の伝統舞踊についてその舞踊特性を捉え、伝統文化について理解することが出来る内容を提供する。さらに、ノンバーバルコミュニケーションからみた身体表現というテーマで、日常生活における身振りしぐさや所作等について観察・調査をしてプレゼンテーションを行う。

2. 履修要件

特にありません。

3. テキスト

武藤芳照他著、新訂 現代身体教育論、放送大学教育振興会、2006 年、2,300 円

尼ヶ崎 彬著、ダンス・クリティーク、勁草書房、2006 年、2,800 円

4. 参考書

クルト・ザックス著、小倉重夫訳、世界舞踊史、音楽之友社、1972 年、2,500 円

アンドレ・ルロワグーラン著、荒木 亨訳、身振りと言、新潮社、1973 年、2,500 円

藤波隆之著、伝統藝能の周辺、未来社、1982 年、2,000 円

Nirnala Paniker 著、NANGIRA KOOTHU、NATANAKAIRALI、1992 年、2,000 円

5. 講義予定

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 世界の伝統舞踊とその歴史概要
- 第 3 回 世界の伝統舞踊 VTR で紹介
- 第 4 回 日本の伝統舞踊とその歴史概要
- 第 5 回 日本の伝統舞踊 VTR で紹介
- 第 6 回 伝統舞踊に関する和書講読
- 第 7 回 伝統舞踊に関する和書講読
- 第 8 回 伝統舞踊に関する英書講読
- 第 9 回 伝統舞踊に関する英書講読
- 第 10 回 表現動作からみた舞踊 1
- 第 11 回 表現動作からみた舞踊 2
- 第 12 回 文化としての舞踊について
- 第 13 回 表現動作（身振りしぐさ等）の観察・調査実施
- 第 14 回 表現動作（身振りしぐさ等）の観察・調査実施
- 第 15 回 発表・討議
- 第 16 回 期末試験

6. 評価方法

- ・活動状況 40 点
- ・レポート 30 点
- ・試験 30 点
- ・合 計 100 点

7. その他

この講義を通して、地域社会や教育現場における舞踊文化の役割・貢献について認識を深める機会が多く得られると希望する。

科 目 名	伝統武道特論			担 当 教 員 ： 高宮城 繁
科目名(英語)	Traditional Japanese Martial Arts			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1, 2	通年	6 1 0	研究室に掲示

1. 講義内容

この授業科目は、武道の領域と対象者を学習することにより、武道に内在する日本文化の本質を理解し、スポーツと異なる日本伝統武道の特質の理解を進めていく。それにより武道全般にわたる基礎知識を理解させる。

2. 履修要件

特になし。

3. テキスト

高橋富雄（著）『武士の心 日本の心』（上巻）近藤出版社 1991年

田中 守・他三名（共著）『武道を知る』不味堂出版、平成12年。¥2,100

高宮城繁・比嘉敏雄・比嘉勝芳 編著『沖縄空手道概説―武道空手の諸相―』沖縄空手道協会北谷道場、1996年

4. 参考文献

高宮城繁・比嘉敏雄 （編著）『武魂 ―奥妙佐錬心―』沖縄空手道協会北谷道場、2002年

5. 講義予定

- 第 1 回 (4/13) 自己紹介と受講心得について
- 第 2 回 (4/20) 日本伝統武道の諸相（Ⅰ）―武の字義・武術の種類（類型）・歴史
- 第 3 回 (4/27) 日本伝統武道の諸相（Ⅱ）―時代と思想
- 第 4 回 (5/11) 日本武道とヨーロッパの騎士道（Ⅰ）
- 第 5 回 (5/18) 日本武道とヨーロッパの騎士道（Ⅱ）
- 第 6 回 (5/25) 日本武道成立の歴史的要件 ―武士・武士道・禅・儒教
- 第 7 回 (6/1) 戦技の歴史的変遷（Ⅰ）
- 第 8 回 (6/8) 戦技の歴史的変遷（Ⅱ）
- 第 9 回 (6/15) 中国・日本・沖縄の文武両道論の系譜
- 第10回 (6/22) 名人達人の系譜
- 第11回 (6/29) 与えられた課題についての討論会
- 第12回 (7/6) 学生レポート（Ⅰ）―指定された課題について口頭発表
- 第13回 (7/13) 学生レポート（Ⅱ）―指定された課題について口頭発表
- 第14回 (7/20) 論文（5頁）～10頁）検定作業（Ⅰ）
- 第15回 (7/27) 論文検定作業（Ⅱ）
- 第16週 (8/3) 期末試験（＊筆記試験を実施する場合）

6. 評価方法

活動状況	50%
課題論文発表	50%
合 計	100%

7. その他

科目名	国際スポーツ・体育史特論			担 当 教 員：向山貴仁
科目名(英語)	History of Physical Education and International Sports			
単位数	受講年次	開講学期	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前学期	人210	月 16:30～18:00
1. 講義内容 体育・スポーツの生成及び発展について、欧米諸国や近代社会におけるスポーツと国民教育、学校体育の展開及び、我が国の学校体育について考究する。 体育・スポーツの制度、目的、内容、方法、教員養成等の変遷を対象として分析を行うとともに、内外の論文や資料を講読しながら考察・討議する。				
2. 履修要件 特になし。				
3. テキスト ・D・B・ヴァン ダーレン、B・L・ベネット、加藤橘夫訳（1976）体育の世界史. ベースボール・マガジン社. ・岸野雄三編著（1984）体育史講義. 大修館.				
4. 参考書 ・今村嘉雄（1989）19世紀に於ける日本体育の研究. 第一書房. ・井上一男（1970）学校体育制度史 増補版. 大修館. ・岸野雄三・多和健雄（1972）スポーツの技術史. 大修館. ・岸野雄三 他（1986）新版 近代体育スポーツ年表. 大修館. ・成田十次郎 他（1988）スポーツと教育の歴史. 不昧堂. ・能勢修一（1995）明治期学校体育の研究－学校体操の確立過程－. 不昧堂. ・竹之下休蔵・岸野雄三（1983）近代日本学校体育史. 日本図書センター.				
5. 講義予定 第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 体育・スポーツ史研究の意義 第 3 回 資料収集と分析・解釈 第 4 回 古代ギリシャの体育 第 5 回 古代ギリシャにおける競技施設 第 6 回 ドイツにおける近代体育の展開 第 7 回 イギリス近代スポーツの成立と展開 第 8 回 アメリカ・スポーツの成立と展開 第 9 回 日本における近代スポーツの導入と展開 第10回 日本における学校体育制度 第11回 明治期における学校体育文献 第12回 明治期における学校体育の教材 第13回 明治期における学校体育の指導方法 第14回 大正期における学校体育の展開 第15回 昭和・平成期における学校体育の展開				
6. 評価方法 授業意欲 50点 レポート 50点 合 計 100点				
7. その他 特になし				

科目名	トレーニング特論			担 当 教 員 ： 竹内 伸也
科目名(英語)	Sports Training Theory			
単位数	受講年次	開講学期 (前期) 集中講義	研究室	オフィスアワー
2	1, 2		非常勤講師控室	講義終了後
1. 講義内容 発育・発達途上の青少年に対する体力づくりは、Training（鍛錬）なのか、Exercise（運動）なのか、その境界はあるのか、一歩間違えれば発育、発達に影響を与える危険性がある。 また、中・高年者の体力づくりでは、運動の内容をどのように設定するか。更には、競技者の Training には限界があるのか、世界の超一流選手の Training とは如何なるものか。運動生理学・人間機能学を背景に総合科学的・社会的に究明する。 2. 履修要件 学部にて、トレーニング論を受講済みで、生理学・運動生理学、人間機能学、トレーニング論演習を受講していることが望ましい。 3. テキスト 特に設けないが、国内外の論文を参考にする。 4. 参考書 吉田勲持著、『構造医学の原理（基礎編）』、エンタプライズ社 芳賀修光・大野秀樹編、『トレーニング生理学』、杏林書院 石河利寛著、『健康・体力のための運動生理学』、杏林書院 中野昭一編、『図説 運動・スポーツの功と罪』、医歯薬出版 5. 講義予定 第 1 回 トレーニングと運動の相違性 第 2 回 発育・発達の意味とトレーニング・運動の関係 第 3 回 幼児期の運動 第 4 回 児童期の運動 第 5 回 ジュニア期の運動とトレーニングⅠ 第 6 回 ジュニア期の運動とトレーニングⅡ 第 7 回 成人期の運動とトレーニングⅠ 第 8 回 成人期の運動とトレーニングⅡ 第 9 回 中年期の運動 第 10 回 高年期の運動 第 11 回 スポーツ選手の基礎トレーニング 第 12 回 スポーツ選手の専門的トレーニング 第 13 回 超スポーツ選手のハードトレーニングとは 第 14 回 運動・トレーニングの評価法Ⅰ 第 15 回 運動・トレーニングの評価法Ⅱ 第 16 回 試験 6. 評価方法 担当部門での発表内容 40点 討論への参加内容 30点 レポート 30点 合 計 100点 7. その他				

科目名	ヘルスプロモーション・ウェルネス特論			担 当 教 員 : 杉本 英夫 (学外)
科目名(英語)	Health Promotion and Wellness			
単位数	受講年次	開講学期 (後期) 集中講義	研究室 非常勤講師控室	オフィスアワー 講義終了後
2	1・2			

1. 講義内容

ヘルスプロモーション・ウェルネスについての理念は現代の先進諸国における健康政策においては不可欠な理念である。現在そのことを理解し、その理念で健康政策を立案する基本的能力を身につけたウェルネス・マネージャー的人材は幅広く求められている。ヘルスプロモーション・ウェルネスの理念は現代社会における健康政策のパラダイムとも言える。

本講義ではその理念の起こりと歴史的背景、健康観についての歴史的変遷、健康政策への活用と評価の視点を講じ、ヘルスプロモーション・ウェルネス理念を理解した健康政策立案への基本的能力を習得することをねらいとする。

2. 履修要件

特に無いが、健康政策立案に関心のある者が望ましい。

3. テキスト

山本幹夫監訳、島内憲夫編 訳、21 世紀の健康戦略 1 ヘルス・フォー・オール、垣内出版、¥1,400+税
 島内憲夫 訳、21 世紀の健康戦略 2 ヘルスプロモーション、垣内出版、¥1,400+税
 島内憲夫 訳、21 世紀の健康戦略 3 ヘルスプロモーション～戦略・活動・研究政策、垣内出版、¥1,800+税

4. 参考書

島内憲夫 編著、「ヘルスプロモーション講座」、順天堂大学ヘルスプロモーション・リサーチセンター、2005 年
 島内憲夫、編 訳、21 世紀の健康戦略 4 ヘルシー・シティーズ～新しい公衆衛生をめざして～、垣内出版、
 ¥2,000+税

5. 講義予定

第 1 回	ガイダンス
第 2 回	健康観の変遷について
第 3 回	ウェルネスの概念と歴史
第 4 回	〃
第 5 回	ヘルスプロモーションの概念と歴史
第 6 回	〃
第 7 回	WHOの健康政策
第 8 回	〃
第 9 回	我が国における健康政策
第 10 回	〃
第 11 回	ヘルスプロモーション・ウェルネス理念と健康政策
第 12 回	健康政策の立案と策定
第 13 回	〃
第 14 回	健康政策の評価と視点
第 15 回	まとめ

6. 評価方法

評価は次の視点から総合的に行う。

①□ 授業への取り組み (50 点) : 授業での討論、グループワークへの積極的な参加
 ② 課題レポートの提出 (50 点)

7. その他

集中講義となるので上記の講義予定は 4 回に分けて実施する。
 講義の形態は講義形式を主体として、討論、グループワークも行う。

科目名	健康栄養学特論			担 当 教 員：新城 澄枝
科目名(英語)	Special Topics in Health Nutrition			
単位数	受講年次	開講学期 (後期) 集中講義	研究室 非常勤講師控室	オフィスアワー 講義終了後
2	1・2			

1. 義内容

生活の中での食事の意義や現代における食生活と健康問題との関連について理論・知識を深める。現代の食の課題であるメタボリックシンドロームの概念に基づく生活習慣病予防や食品の安全・安心、食を選択する能力を培い、また、沖縄の食文化に触れ長寿との関連で学習を深め、健康の為の食の自己管理能力を高める。

2. 履修要件

授業の進め方は、講義と受講生による発表（小プレゼンテーション）による、受講生の主体的取り組みと双方向型で進める。

3. テキスト

資料を配布する

4. 参考書

「新しい食物学―食生活と健康を考える― 改訂第2版」加藤陽治/ 長沼誠子 編集、南江堂、2009 年
「標準的な健診・保健指導プログラム（確定版）：全4冊」厚生労働省健康局、平成19年4月
「イラスト 運動生理学」朝山正己ほか編著、東京教学社、2008年
「健康の科学シリーズ9 沖縄の長寿」日本栄養・食糧学会監修、学会センター関西学会出版センター

5. 講義予定

第 1 回

食生活の概論

第 2 回

世界の食文化類型と健康問題の特徴

第 3 回

日本の食生活の変遷と健康（栄養素摂取量の変化と疾病構造の変化）

第 4 回

沖縄の食生活の変遷と健康（栄養素摂取量の変化と疾病構造の変化）

第 5 回

日本人の食をめぐる現状と課題Ⅰ（少子高齢社会、ライフスタイル等の変化と健康栄養問題）

第 6 回

日本人の食をめぐる現状と課題Ⅱ（食に対する価値観、知識・技術の変化）

第 7 回

日本人の食をめぐる現状と課題Ⅲ（食情報の氾濫、フードファディズムと食の選択能力）

第 8 回

日本人の食をめぐる現状と課題Ⅳ（食生活と生活習慣病：メタボリックシンドロームの概念を中心に）

第 9 回

21世紀の健康づくり；国の健康・栄養政策

第10回

生活習慣病予防のための食生活（バランスのとれた食生活の実践：四群点数法の基礎）

第11回

世代別栄養管理のための食生活（母性期・成長期・青年期・壮年期・老年期：四群点数法応用Ⅰ）

第12回

安全なトレーニング、コンディショニングのための栄養管理

第13回

疾病予防・治療のための食生活（貧血・羸瘦症・肥満・糖尿病・腎症・脂肪肝等：四群点数法応用Ⅱ）

第14回

低栄養の予防と疾病の重症化予防：糖尿病・糖尿病性腎症・透析を例に

第15回

沖縄百寿者に学ぶ健康のための食生活

＊小プレゼンテーション、小テスト、レポートの提出あり

6. 評価方法

小プレゼンテーションや授業での活動状況

30 点

小テストや提出物

30 点

レポート

40 点

合 計

100 点

7. その他

健康と食生活に関する文献を、幅広く読むこと。